

Aブロック全作品と講評

雨

www.columnland.net



雨よ、

ありがとう！

おかげで、

鼻がよく通る！

「花粉症患者一同」

彼が泣くとまた、
ぽつり、ポツリ
跳ねる波紋
幾筋もの軌跡
それも君がそこに
いる証明。

彼はよく泣く
泣きやんだと思えばまた、
その度に僕は君に打たれ
傷つくこともあるけれど。

彼が泣きやむと現れる
鮮やかな色は君が見せる幻
誰しもが一度はそれに魅せられる。

君を嫌いな人は多くいるだろうが
僕はそんな君の凜とした姿が好きだ

ほら、晴れた

放課後の帰り道

急に雨が降り出した

信じたのに

天気予報の馬鹿

傘がない私は

濡れるしかない

何もできず

歩くだけ

こんな寂しい

雨の白いは

苦手だ

僕の父は傘を作る職人であった。父の仕事は丁寧すぎるほど丁寧で、頑固な父の性格をとてもよく表していた。

しかし、当時の僕はそんな父の仕事を好きになれなかった。

確かに、丁寧な父の傘の品質は良かったが、一本一本を手作りするため、多くは作れないので自然と値段は高くなり、あまり売れ行きはよくなかった。

家族の生活も裕福とは言えなかったし、父はほぼ毎日仕事に追われていたので、自分には父と遊んだ記憶はあまりなかった。

「どうして手作りにこだわるんだ？」

とある酒の席で私は長年の疑問を父に尋ねた。

特に何かあったわけではなく、不意に口から出た言葉だった。

アルコールのせいかもしれない。

父はかなり酔っていたので返事はないかもしれないと思ったが、むしろ、いつもより饒舌に語りだした。

「たとえば俺の作った普通より少しいい傘を持った奴が、傘を試したくて雨の日に散歩に出かけるわけだ。その出先で雨宿りをしてる女の子を見つける。そいつがその女の子に俺の作った傘を貸してあげる。それがなれそめで、その二人が結婚してするかもしれない。俺の傘が誰かの幸せのきっかけになれるなんて、なんかいいじゃないか、そういうの。」
そんなことが本当にあるわけじゃないかと思いつつも、父の言葉が冗談に聞こえなかったので、僕には何も言えなかった。

その会話をした数日後、僕はコンビニにいた。

傘の材料を父の代わりに取りに行った帰りだった。

簡単な昼食を買って店から出ると雨が降りだしたところだった。

雨の予報が出ていたので僕は父の傘をコンビニの傘立てに立てていた。

しかし、傘が見当たらない。

前を見ると父の傘によく似た傘を差した人を見つけた。

傘立てに、もう一本よく似た傘がささっていたから、きっと間違えたんだろう。今から追いかければ間に合う。そう思って、僕は雨の中を駆け出した。

あいにくの雨になった空を見て、僕は彼女との出会いを思い出していた。

あと少しで僕らの結婚式が始まる。

僕らのなれそめを父はまだ知らない。

父の描いていた物語とは多少違ってはいるけれど、この話をしたらどう思うのだろうか。

少なくとも、父の傘は僕の幸せのきっかけにはなったわけだ。

まあ、だけど、自分の孫が自分の作った傘を使うのは、喜んでくれるだろうことだけは確かだ。

「父の夢と、僕らの出会い」

洗濯物「やばい、降ってきた」

僕は雨天が大好きだ

コンクリートを打ち付ける
バチバチバチと雨の音

溜まった水が流れ出す
排水口へと逃げていく

車がしぶきを上げながら
歩行者共に嫌がらせ

雨で世界が踊りだす
僕の心も踊りだ

ビチャッ

あっ

足元を見ると水たまり
ズボンの裾まで濡れていく

早く晴れればいいのに

雨なんて大嫌いだ

雨「今なら黄砂キャンペーン」

私は祖父、祖母を含め、以下五人で暮らしている。その中でも祖父は年々物忘れがひどくなる一方で、昨年、アルツハイマー症候群だと医者から診断された。それもそのはず、私のことも、いとこと間違えたりするくらいだったからである。祖父は年を取るにつれて、外に出ず、家に引きこもりがちだったので、家族全員が心配していた。そんな時に事件は起きてしまった。

確かあれは六月中旬の大雨の日だったと思う。私が家に帰ると家族が何やらざわついていた。

「何かあったの？」

「おじいちゃんがいなくなっちゃったのよ！」

先に述べたとおり、私の祖父はあまり外出する方ではなかったのですが、私はてっきりアルツハイマーが進行して、徘徊するようになってしまったのかと思った。しかし、こんな大雨の日に何をしに行ったのだろうか？

警察には連絡をしていたので、しばらくして警察から電話がかかってきた。

「こちら警察ですが、おじいちゃんは無事に見つかりましたよ。」

「え、本当ですか、ありがとうございます。それで、どこにいたんですか？」

「それが……」

「あ、そうですか。わかりました。この度はご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。」

しばらくすると、傘をさした祖父が警察官と一緒に帰ってきた。その腕の中には雨に濡れてしまった大きな花束があった。祖父が、祖母に花束を渡してこう言った。

「いつもありがとう。これからもよろしくね。」

気づけば、今日は祖父の結婚記念日であった。物忘れのひどい祖父だったが、結婚記念日だけは覚えていたのである。祖母は目を潤ませてこう言った。

「こちらこそよろしくおねがいします。」

「雨の日の思い出」

今日くらい

イヤホンを外して帰ってみようかな

「雨音を聴きながら」

ある雨の日、私はコンピニ漫画雑誌を買いにいった。

毎週月曜日、この盾になりそうなくらい分厚い漫画雑誌を読むことが私の唯一の楽しみだ

しかしコンピニを出るとき事件は起った

傘がない。

傘泥棒の仕業だ

奴らは「使い終わったらもとの場所に戻している」だとか「日本中の傘をシェアしているだけだ」だとか訳のわからない事をぬかすが、使いたい時に使えない傘になど意味はないのだ。

晴れの日の傘には本当に使い道がない。せいぜい男子小学生が剣にみたててはしゃぐくらいだ。ビニール傘は日傘の代わりにもならないし

私は仕方なく漫画雑誌の倍の金を払ってビニール傘を買った。

店員が同情に満ちた目でこちらを見てくる。

いいのだ。私は有意義な月曜日を過ごすためにこの傘を買うのだ。
後悔などはしていない

コンピニを出た。

雨が上がっていた

月曜日の昼下がり 右手には剣、左手には盾。
さあ、傘泥棒を成敗しにいこう

突然の大雨の日
僕と彼女は傘を忘れ

僕の目に映ったのは
透けたピンクのブラジャー

雨は好き

あの人と初めて会った日は雨が降っていたから

雨はきらい

やってくるあの人姿が見えないから

雨は好き

あの人と世界に二人きりのように感じるから

雨はきらい

あの人がいないと世界に一人きりのように感じるから

雨は好き

あの人のはしゃぎを探しては期待せずにすむから

雨はきらい

片袖ぬらしたあの人を思い出してしまうから

雨は好き

あの日二人で見た月を思い出さずにすむから

雨は…

「遊女」

コンテスト結果

[Aの部]

コ ラ ム 番 号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	花粉症患者一同	0 pt	12 位	4 sp
		湿気ウェルカム！ そんな立場のかたがたもいらっしやるのだなあと気づかせてくれるナイス着眼。 雨への感謝の気持ちをかみしめつつ、今週のスタートです。 特別賞：花粉賞（わかる！！）花粉賞（うまいことかかったから）花粉賞（文字ってみた）わかるで賞（班員一同花粉症だから） イチオシフレーズ：「おかげで鼻がよく通る」		
A02	秋時雨	7 pt	5 位	0 sp
		雨のち虹、そして晴れ。 彼と君という比喻を起用することで、空とゆったり会話を交わしているような雄大な気分を運んできていただきました。 フレーズも洗練されてますね。ふわっと着地させたラストがここちよい。		
A03	心の降る夕立	3 pt	8 位	0 sp
		誰でも経験ありそうな日常のできごとを、叙情的にきれいにまとめていただきました。「雨の匂い」「心の降る」といった表現がユニークで、しっとり浸れます。 留学生さんの美しい日本語でした。		
A04	父の夢と、僕らの出会い	18 pt	2 位	0 sp
		職人さんの手仕事。世代を超えて受け継がれてゆくものの。 コンビニシーンに入ってからが急展開で、ラストはうれしい結婚式。コンパクトに切り詰めた描写が、逆に想像を刺激して余韻ゆたかなハッピーエンドに仕上がっています。 おめでとう、シルバー・メダル!! イチオシフレーズ：「僕は雨の中を駆け出した。」		
A05	無題（洗濯物）	5 pt	6 位	1 sp
		わーい、てえへんだ、てえへんだっ！ 洗濯物くんたちが、じたばたじたばた、身をよじるさまが見えるようなユーモラスなひとことでした。 やばいやばいと切迫感が伝わってイチオシフレーズ大賞ゲットです、おめでとう！ 特別賞：ヤバイで賞（ヤバイから。） イチオシフレーズ：「やばい、降ってきた」×4		
A06	雨なんて大嫌いだ	2 pt	9 位	0 sp
		大好き、のち大嫌い。 気持ちのアップダウンが、リズムカルなフレーズとともにメロディのように入ってくる親しみやすいつくりでし		

		た。
A07	無題（黄砂）	1 pt10 位0 sp キャンペーンって、なんか特典付いてきたりするのかしらん？ そんなツッコミをしたくなるブラック・ユーモアでした。さくっと書いてインパクト。 イチオシフレーズ：「今なら黄砂キャンペーン」× 2
A08	雨の日の思い出	14 pt3 位0 sp 人騒がせ、のち、しみじみ。 大きな花束が、ぐぐっとクローズアップされて、年輪を経た夫婦の、ちょっとぎこちない会話で、おじいちゃんの誠実さ全開。 ハートウォーミング・ストーリーでブロンズ・メダルです、おめでとう！
A09	雨音を聴きながら	10 pt4 位2 sp 雨音がピアノの音色に聴こえてくるような。 余白に音を感じさせるきれいな仕上がりでした。 特別賞：今日やってみたくて賞（オシャレ） 危ないから外しま賞（まわりのおとが聞こえないのは危険だから。ただ作品はおしゃれ。）
A10	傘泥棒の囁	25 pt1 位0 sp これは超たのしい！ 雑誌の盾に、ビニール傘の剣。さあ傘泥棒退治だ！ 伏線がみごとに回収されて、爽快なラストでした。 ゆいいつ、「。」を打つ打たないは統一してほしかったか。 ウケたウケた、ネタがクリーンヒットして壇上ゴールド・メダルです、おめでとう!!! イチオシフレーズ：「さあ、傘泥棒を成敗しにいこう」「傘泥棒の囁」「日本中の傘をシェアしているだけだ」
A11	帰り道	1 pt10 位8 sp なるほど…… で、このあと二人はどうなったのか、が気になります。 色は白？ いやいや黒でしょ、と議論沸騰で、最多特別賞 & イチオシフレーズ大賞を攫いました。おめでとう!! 特別賞：もしかしてだけど誘ってるんで賞？（理解できるし、度胸に感動） お前レギュラーで賞（レギュラーとしか思えない。） 白のブラジャーもそれはそれで一興で賞（色によって楽しみ方があり、それを感じさせてくれる。） 僕も見たいで賞（ピンクのブラジャー大好きだから。） 変態賞（普通シャツのすぐしたにブラを着けない。故に女子も変態） ブラジャーは黒がよかったで賞（3位に選出 黒なら2位だった。） へんたいしんしで賞（わあいブラジャー A-13班ブラジャー大好き） 清純賞（清純だったから） イチオシフレーズ：「透けたピンクのブラジャー」× 4
A12	遊女	4 pt7 位0 sp 好き/きらい。花占いの乙女のような行きつ戻りつ。 だんだんとネガティブになっていって、ああ恋は終わってしまったんだなあと寂しさ募る今週の裏表紙でした。

[Bの部]

コラム 番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
B01	私の心は雨模様	8 pt	4 位	4 sp
		いきなり彼の胸のなかに飛び込んでゆくような、思い切りのいいフレーズ。 言われてみたくないですか男性陣？ そんなアピール度満開の今週の表紙で、最多特別賞ゲットです、おめでとう！ 特別賞：明日は晴れで賞（明日は晴れてほしい！）君に熱中賞（ねえチューしよう。）書記賞（書記の私はすきでした。）自分の傘買いま賞（3行だから） イチオシフレーズ：「私のことも言えてくれたら」		
B02	でも、やっぱり雨は嫌い	0 pt	10 位	1 sp
		ひとつぶひとつぶ、あたかも雨粒のようにぽつりぽつりと区切った表記法が、しずくの思いを体現しているような。 新しい工夫ですね。雨っぽくて良かったと思います。 特別賞：スペースのわけを知りたいで賞		
B03	広告『雨ふらせーる』新発売	4 pt	7 位	0 sp
		降雨装置の商品化。そんな奇抜なアイディアを運動会阻止という身近なニーズに添って広告仕立てで見せたところがワザ。 2つもらってどーすんだよ！ な小ネタも快調に駆け抜けていただきました。 イチオシフレーズ：「雨ふらせーる」× 2		
B04	青色リトマス紙	8 pt	4 位	1 sp
		まったくもう、よくもダメしていただいたもんです。 「控えめな淡紅色」だの、「可愛い、赤みが差した色」だの、思わせぶりに引っ張って引っ張って、どーん。 ナイス☆ミスリード！ 特別賞：がんばったで賞（文豪でした。女性が書いてそうです。）		
B05	空に咲く花	0 pt	10 位	1 sp
		スクランブル交差点。傘を花に見立てて。 上空からの視点が爽快で、色使いもあざやか。絵本のワンシーンのような。 フォントやレイアウトを工夫すると、もっと映えるかと思えます。おためしあれ。 特別賞：渋谷で賞（渋谷だから。）		
B06	雨に負けない男	0 pt	10 位	3 sp
		雨にも負けずのチャリ通男。実感もってます。 ここでがんばったことが、たいせつな原点。共感と呼ぶパワフルな宣言でした。 特別賞：皆勤賞（強く生きる漢がそこに居たから。）2年生で賞？（2年だから？）前向きで賞（ひたすら前向き）		
		2 pt	8 位	1 sp

B07	毎日みえています	これはワザありだなあ！「頭の水をふき取る」って、そういう意味だったんかい、とビックリ感心。 特別賞：意味分かんない賞（意味不明だから） イチオシフレーズ：「毎日見えています」
B08	雨夜の月	6 pt 6 位 0 sp 夜空を見上げて募る恋しさ。気ままな雲に思いを乗せて。 リフレインがせつない。月の見えない雨夜という設定が良く反映され、フレーズも歌詞のように整った完成度の高い逸品でした。 イチオシフレーズ：「交錯しない私と彼の時間軸」
B09	雨二モマケズ？	12 pt 3 位 0 sp 来ました賢治リスペクト。元の詩が持っている、どことなくエラソーな説教臭さをじょうずに受け継いで、ガリベン君ヴァージョンに仕立てていただきました。 「サウイウガクセイニワタシハナリタクナイ」オチかと思いきや、ナリタイんですね、渋い趣味だなあ。 おめでとうブロンズ・メダル！ イチオシフレーズ：「サウイウガクセイニワタシハナリタイ」「雨二モマケズ」
B10	空の涙	2 pt 8 位 0 sp 空が泣く/笑うという擬人化が、ぴたりとはまって、語りかけが自然に入ってきます。「感謝してる」なんて、この流れでないと照れて言えませんよね。 イチオシフレーズ：「いつも泣いていたね」「君が晴れ晴れと……」
B11	おとなげないってこういうこと。	26 pt 1 位 3 sp おねえちゃん最強！ こんなおねえちゃんをご降臨あそばされたら、理系男子どもの80%が恋してしまいそうです。あんのじょうの大ヒット、あざやかに首位を攫いました。おめでとう!! とある賢者TAさんが、いっしょうけんめい計算してたけど、どうなったかなー。 特別賞：ノーベル物理学賞（わざわざ終端速度の計算までしていたため。）おねえちゃんヒトイで賞 東工大生で賞（東工大生らしいから） イチオシフレーズ：「それでもいいの？」×2
B12	雨	22 pt 2 位 1 sp 雨だからって虹を架けた人はたくさんいたけれど、「七色に笑った」なんて秀逸な表現にはついぞお目にかかれませんでした。さすがのイチオシフレーズ大賞、そしてシルバー・メダルです、おめでとう!! レイアウトもきれいに整って、感性ゆたかな表現に浸りつつ今週の読み納めです。 特別賞：短いで賞（短くて読みやすいから。） イチオシフレーズ：「七色に笑った」×3